

「学校評議員制度」について

学校評議員制度とは

学校法人五島育英会が、設置する初等中等教育学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）において、校長が学校の外部の方々から多様な意見を幅広く聴いて、円滑な学校運営に役立てるため、平成21年度からこの制度を設けました。本校においてもその趣旨にもとづき、「開かれた学校づくり」をめざして導入いたしました。

平成22年度の活動報告

本校の学校評議員の皆様

斎藤無難太様（成城の自治会副会長）

大谷 眞一様（東京都市大学教授）

野口 潔人様（世田谷区立明正小学校長）

辻 紀子様（世田谷区青少年委員）

「学校評議員の会」開催日

第1回 平成21年 8月 6日（木）

第2回 平成22年 4月16日（金）

第3回 平成22年 7月開催予定

第2回における主なご意見(要旨)

- ・ 中学入試の志願者増（24%増）や進学実績は立派な結果だと思う。教職員の努力の成果の一つの表れではないか。
- ・ 近頃の生徒の様子が以前と大きく変わり、活発であると同時に落ち着いた学校生活を送っているように感じる（クラブ活動の様子や学校周辺の清掃を行っている野球部など）、学校が求めている学力と生活姿勢は強い関係があると思う。
- ・ 公立でも取り組んでいる職業研修よりも、本校で取り組んでいるキャリアスタディはOBの協力などいろいろと工夫されており、小学校でも取り入れたい内容である。
- ・ 付属という環境の良さを生かした学校づくりを行い、子どものあらゆる可能性をさらにひきだして欲しい。中期修了論文の取り組みの中で、思考過程を学ばせ、労を認め、ほめる教育をして欲しい。（中期修了論文とは、「自らテーマを設定し、調べ、探求する」学習プログラムの1つで、高校1年生全員が取り組むものである。）
- ・ 都市大グループとして発展していくには、強い目的意識を持った生徒を大学に入学させて欲しい。そのためには、中期でキャリア教育を終了させるのではなく、後期での取り組みも重要ではないか。
- ・ 昨年地域の文化祭への参加を依頼したが、定期試験のために実現できなかった。今後は少しずつでも交流が深められる工夫ができればよいと思う。

（文責：学校記録担当）

貴重なご意見を他にも多数いただきましたが、スペースの関係で割愛した部分もあります。これらのご意見を受け止め、さらに特色ある学校づくりを推進してまいります。